

貯法 室温保存、密封容器、暗所保存

動物用整胃腸薬

使用基準

メンブトン20%注

【本質の説明】

本剤はメンブトンを有効成分とする注射剤です。メンブトンは、胆汁、膵液、胃液の分泌量を増加させ、消化酵素活性を高めることで、胃腸内の恒常性を回復します。また、メンブトン20%注は有効成分が高濃度に含まれるため、少ない投与量で動物への負担を軽減することができます。

【成分及び分量】

本品100mL中

有効成分	含量
メンブトン	20g

【効能又は効果】

牛：胃腸カタル、第一胃食滞
豚：単純性下痢症

【用法及び用量】

通常、1日1回、2～3日間体重 1kg当りメンブトンとして下記の量を筋肉内に注射する。

牛：5～10mg（製剤として0.025～0.05mL）
豚（10～60日齢）：10～20mg（製剤として0.05～0.1mL）

投与量の目安

牛		豚	
体重(kg)	投与量(mL/回)	体重(kg)	投与量(mL/回)
1	0.05	1	0.1
50	2.5	10	1.0
100	5.0	20	2.0
300	15.0	30	3.0
400	20.0	40	4.0
500	25.0	50	5.0
600	30.0		

【使用上の注意】

（基本的事項）

1. 守らなければならないこと

（一般的注意）

- 本剤は、獣医師の指導の下で使用すること。
- 本剤は、効能・効果において定められた目的のみを使用すること。
- 本剤は、定められた用法・用量を厳守すること。
- 本剤は、「使用基準」の定めるところにより使用すること。

注意：本剤は医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第83条の4の規定に基づき上記の用法及び用量を含めて使用者が遵守すべき基準が定められた動物用医薬品ですので、使用対象動物〔牛、豚（生後2月を超えるものを除く）〕について上記の用法及び用量並びに次の使用禁止期間を遵守して下さい。

牛：食用に供するために殺する前25日間又は食用に供するために搾乳する前72時間
豚（生後2月を超えるものを除く）：食用に供するために殺する前6日間

（牛及び豚に関する注意）

- 本剤は、生後10日齢以下の子豚及び60日齢を超える豚には使用しないこと。
- 本剤は、子豚で、ときに一過性の赤血球減少を起すこと

があるので、貧血症状が重度の子豚に投与するときは獣医師に相談すること。

- 本剤は、所定量を筋肉内に確実に投与すること。
- 本剤は、静脈内投与による一過性の降圧作用がみられることがあるので、静脈内に投与しないこと。

（取扱い上の注意）

- 使用期限を過ぎたものは使用しないこと。
- 本剤はカルシウム塩（例えばグルコン酸カルシウム又はホログルコン酸カルシウム）を含む製剤、プロカイペンシリンを含む製剤、他のビタミンB複合剤等の酸性注射液と混ぜて使用しないこと。
- 注射器具は滅菌又は煮沸消毒されたものを使用すること。薬剤により消毒をした器具又は他の薬剤に使用した器具は、使用しないこと（ガス滅菌によるものを除く）。なお、乾熱、高圧蒸気滅菌又は煮沸消毒等を行った場合は、室温まで冷えたものを使用すること。
- 使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- 本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い、処分すること。
- 使用済みの注射針は、針回収用の専用容器に入れること。針回収用の容器の廃棄は、産業廃棄物収集運搬業及び産業廃棄物処分業の許可を有した業者に委託すること。
- 小児の手の届かないところに保管すること。
- 本剤の保管は、直射日光、高温及び多湿を避けること。
- 誤用を避け、品質を保持するため、他の容器に入れ替えないこと。

2. 使用に際して気をつけること

（使用者に対する注意）

- 誤って注射された者は、直ちに医師の診察を受けること。

なお、本剤の添付文書を持参することが望ましい。

（牛及び豚に関する注意）

- 本剤は、牛で、ときに注射部位に発赤腫脹を起すことがある。
- 副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。

（専門的事項）

① 重要な基本的注意

- 本剤は、子豚で、ときに一過性の赤血球減少を起すことがあるので、貧血症状の重度の子豚に投与するときは、赤血球数のモニタリングを行う等、慎重に投与すること。

【薬力学的情報等】

メンブトンは消化管の分泌機能を刺激し、胆汁、膵液、消化性分泌液の分泌量を2倍から5倍に増加させる。さらに、メンブトンは消化酵素活性を高めるため、消化不良、下痢、食欲不振、胃腸炎の症状を改善する。
(Ackerman, L.2007.Veterinary Practice Management, Black Well Publications, New Jersey, USA.)

【製品情報お問い合わせ先】

リケンベッツファーマ株式会社 梅田工場
〒123 -0851 東京都足立区梅田1 -29 -12
TEL：03 -5888 -6044
FAX：03 -5888 -6045

製造販売業者



リケンベッツファーマ株式会社

埼玉県入間郡越生町成瀬829-6

獣医師、薬剤師等の医療関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発生に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するため必要があると認めるときは、上記【製品情報お問い合わせ先】に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所（<https://www.maff.go.jp/nval/iyakuto/fukusayo/sousa/index.html>）にも報告をお願いします。